

第4回ランピースキン病対策検討会議事概要 (令和7年3月19日開催)

- 1 昨年11月に国内で初めて発生したランピースキン病について、防疫対策要領に基づいた防疫対応を検証した。
- 2 発生直後から行った、発症牛の自主とう汰、同居牛等の出荷自粛、ワクチン接種、ベクターである吸血昆虫対策等は、まん延防止対策として、それぞれ有効と考えられた。
- 3 一方で、自主とう汰への協力が得られず、発症牛が地域に残存したことや、発生農場や周辺地域でのワクチン接種の遅れが、発生拡大につながったと考えられる。
- 4 このため、今後の防疫対策を強化するためには、発症牛のとう汰を含め、必要な措置を発生地域で迅速かつ確実に実施できるようにすることが必要である。
- 5 なお、今回のウイルスは従来想定していた吸血昆虫だけでなく、牛間の接触などでも感染が拡大した可能性が考えられ、感染力が強く短期間のうちに地域で拡大していることから、感染拡大を防ぐためには、発生初期から強制力のある措置を行うことが必要である。
- 6 また、これから吸血昆虫の活動が盛んになり、発生リスクが高まることから、改めて吸血昆虫対策を徹底することが望ましい。
- 7 本病に関する防疫対応等については、今後も必要に応じて、これまで得られた知見や今般の発生状況等を踏まえ、速やかに検討していくこととする。